

食べられるのに捨てられてしまう 食品ロスを減らしましょう

食べ残しや売れ残り、賞味期限が近いなど、さまざまな理由で、食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロス量は年間500万トンを超え、このうち半分近くが家庭から出ているといわれています。この食品ロス量を国民1人当たりで計算すると、毎日茶わん1杯分の食料を捨てていることになります。食品ロスを減らすため、できることから行動しましょう。

食品ロスは何が問題なの？

日本では、食料の多くを海外から輸入している反面、その多くを捨てています。ごみの処理には多額のコストがかかり、燃やすことでCO₂（二酸化炭素）排出や焼却灰の埋め立てなどの環境負荷が生じています。また、多くの食品ロスを発生させている一方で、世界では7人に1人の子どもが貧困で食事に困っている現実があります。私たち一人一人が食べ物をもっと無駄なく、大切に消費していく必要があります。

食品ロスを減らすためにできること

買い物編

- 01 - **買い物前に食材チェック**
出かける前に冷蔵庫を確認してから買い物へ
- 02 - **必要な分だけ買う**
使う分・食べきれる量だけ買う
- 03 - **期限表示を知って賢く買う**
すぐ使う食品は棚の手前から取る

家庭編

- 01 - **適切に保存する**
食品に記載された保存方法に従って保存する
- 02 - **食材を上手に使いきる**
残った料理や食材はリメイクレシピなどを活用
- 03 - **食べきれる量を作る**
体調や健康、家族の予定も配慮する

食品ロスを減らすためには、一人一人が意識して、食品ロスの削減を目指すことが大切です。工夫をすれば、捨てられる食材は必ず減ります。できることから行動してみませんか。

どうしても使い切れない食品はフードドライブを活用しましょう。

フードドライブとは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域の子ども食堂や福祉施設、フードバンクなどの生活困窮者支援団体などに寄付する活動。市では、市役所両庁舎・さざんかに食料回収ボックスを設置していますので、ぜひご協力ください。

植物性の食用油回収事業

これまで台所などから流され水環境の汚染原因となっていたり、可燃ごみとして処理されたりしていた食用油を相良庁舎1階環境課または榛原庁舎2階市民課の窓口にて回収し、再利用しています。

（※飲食店などによる事業活動から出る廃食用油は回収できません）

【油の出し方】

- ①油を冷まし、軽くこす。※賞味期限切れのものは未開封のまま回収します。
- ②入れ物（ペットボトルなど）に入れ、しっかりとフタ（キャップ）を閉める。

回収しているもの

▶植物性の食用油（サラダ油）：菜種油、べに花油、ひまわり油、大豆油など▶ごま油▶オリーブオイルなど

回収できないもの

▶植物性の食用油であっても水分や天かすの多いもの、香油▶動物性の油（ラード、バターなど ※常温で白く固まっているもの）▶鉱物油（機械油、灯油、軽油など）▶事業活動から出る廃食用油（弁当屋、調理施設、スーパーなどの廃食用油）



市ホームページ（食用油回収について）



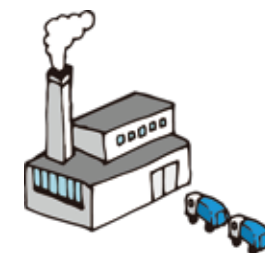
窓口での回収所（相良庁舎）

10月は3R推進月間・食品ロス削減月間です

ごみの分別・減量に協力をお願いします

環境省では、循環型社会の構築を目指し、毎年10月を「3R」を「Reduce（リデュース＝ごみの減量）」「Reuse（リユース＝再利用）」「Recycle（リサイクル＝再資源化）」の取り組みを強化する月間としています。

市では、この3Rに「Refuse（リフューズ＝使い捨てのものを断る）」を加えた「4R」を推進しています。徹底したごみの分別や、減量に関する取り組みにご協力をお願いします。 問い合わせ 環境課 太田 ☎③2609



市のごみの排出状況

市の1年間のごみ排出量は、14,695トン（榛原地区＝7,243トン、相良地区＝7,452トン）です。
*市民1人当たりで換算すると、1年間の排出量は337キログラム（1日あたり922グラム）、処理費用は17,461円です。

ごみ処理を行う組合	吉田町牧之原市広域施設組合		牧之原市御前崎市広域施設組合	
組合構成市町	吉田町	牧之原市（榛原地区）	牧之原市（相良地区）	御前崎市
総排出量	8,976トン	7,243トン	7,452トン	10,082トン
1人1日当たりの排出量	842グラム	882グラム	937グラム	896グラム

出典：
令和5年度一般
廃棄物処理事業
実態調査

「4R」でごみを減らしましょう

市では、ごみを減らすために次の4つの「R」をお願いしています。できることから実践しましょう。

リデュース Reduce＝減らす

ごみそのものを減らす
▶物を使い切る
▶詰め替え商品の利用
▶賞味期限切れなどによる食品の無駄の防止

リサイクル Recycle＝再資源化

ごみを資源に変え再利用
▶ごみカレンダーを見て分別
▶地域の資源回収の利用
▶市役所の植物性食用油回収の利用

リユース Reuse＝再利用する

繰り返し使う
▶まだ使えるものは人に譲る
▶市役所の衣類回収の利用
▶使い捨てではなく、何度も使える商品を選ぶ

リフューズ Refuse＝断る

不要なものは断る
▶マイバッグを持参し、レジ袋は断る
▶過剰な包装は断る
▶不要なものはもらわない

衣類の回収事業

不要になった衣類を資源物として、相良庁舎1階環境課前または榛原庁舎2階市民ラウンジにて回収しています。回収された衣類は国内外で再利用され、ごみの減量や資源の有効活用となります。

その他、インクカートリッジや乾電池、水銀を含む体温計なども回収しています。

【衣類の出し方】

- ①洗濯などをして、出す物をきれいにする。
- ②ビニール袋に入れて、口をしぼる。（紙袋はご遠慮ください）



回収しているもの

▶和・洋服全般（素材問わず、シャツ、制服、ズボンなど）▶タオル類、ハンカチ、スカーフ類 など

回収できないもの

▶油や泥などで汚れや臭いが付いている衣類▶ふとん、毛布などの寝具類▶下着▶くつ、カバン、ぬいぐるみなど



市ホームページ（衣類回収について）



回収ボックス（相良庁舎）